

【ポスター発表】

フレイルの社会的側面に対する社会福祉の対応

— 先行研究の整理からの考察 —

○ 佐久大学 氏名 長谷川 武史 (会員番号 7118)

キーワード：フレイルの社会的側面 社会的フレイル ソーシャルワーク

1. 研究目的

フレイルとは、「高齢期に生理的予備能が低下することでストレスに対する脆弱性が亢進し、生活機能障害、要介護状態、死亡などの転帰に陥りやすい状態で、筋力の低下により動作の俊敏性が失われて転倒しやすくなるような身体的問題のみならず、認知機能障害やうつなどの精神・心理的問題、独居や経済的困窮などの社会的問題を含む概念¹⁾」とされている。特に社会的側面への対応については、医療専門職だけではなく、非医療専門職であるソーシャルワーカーをはじめ行政関係者や住民等を巻き込んだ取り組みが重要となる。

このフレイルにおける社会的側面に関して、日本国内の研究ではこれまでどのように扱われてきたのか社会福祉領域における研究動向の整理を行い、国内外における研究の現状と課題について整理を行う。

用語の使用については一定の議論が存在するが、本研究では「フレイルの社会的側面」だけではなく、「社会的フレイル」をキーワードとする研究についても扱うこととする。

2. 研究の視点および方法

文献研究として本研究を行った。「フレイルの社会的側面」および「社会的フレイル」に関する研究動向について明らかにするため、学術論文情報のデータベースである、「医中誌Web」、「J-SATGE」、「CiNii Research」、上記3つのデータベースにより、「フレイル 社会的側面」および「社会的フレイル」についてキーワード検索を行い該当した文献に関する整理を行った。

3. 倫理的配慮

本研究は、人と対象とした研究ではないが、「日本社会福祉学会倫理規定」を遵守して実施している。また本研究において開示すべきCOIはない。

4. 研究結果

「フレイルの社会的側面」と「社会的フレイル」の用語の使い方については、「社会的フレイル」を「身体的フレイル」「認知的フレイル」などと同列と見なし、一つの概念としてとらえている視点と、フレイルな状態の人の社会的特徴やフレイルに影響する社会的要

因を便宜的に「フレイルの社会的側面」あるいは「社会的フレイル」と称している研究に大別される。2024年6月時点でのデータベースの検索結果は表1の通りである。

表1 検索結果一覧

| 検索サイト | 検索キーワード | 該当数 | 備考 |
|--------|-------------------------------|-----|---------|
| JSTAGE | 「社会的フレイル」 | 180 | ジャーナルのみ |
| | 「フレイル and 社会的側面」 | 172 | ジャーナルのみ |
| 医中誌 | 「社会的フレイル」 | 106 | 会議録除く |
| | 「フレイル and 社会的側面」 | 63 | 会議録除く |
| | 「社会的フレイル」 or 「フレイル and 社会的側面」 | 152 | 会議録除く |
| cinii | 「社会的フレイル」 | 79 | 論文のみ |
| | 「フレイル and 社会的側面」 | 25 | 論文のみ |

「フレイルの社会的側面」あるいは「社会的フレイル」をどのように定義するかについては、統一的な見解には至っておらず、操作的定義を試みた研究が行われているが、国内の研究においては、Makizako ら(2015)ⁱⁱによる定義に準拠するものも多い。研究内容としては、既にフレイル状態にある高齢者への改善に関するもの、健康で自立度が一定上の高齢者に対する予防アプローチに関するものに大別される。「フレイルの社会的側面」あるいは「社会的フレイル」をどのように捉えるのかについては、現状、研究者の研究領域と関心によって決まっており、定義や概念の統一化が進まない要因となっている。

厚生労働省はフレイルの社会的側面への対応として、介護予防としての「通いの場」等を拡充していくことを方針として打ち出しているが、社会福祉の視点から「通いの場」と想定される取り組みとフレイルを関連付けた研究はほとんど見られなかった。

5. 考察

EBSCOhost(CINAHL Ultimate と MEDLINE)による国内外の文献検索の結果 “frailty” と “social work” に関連する論文は 3,855 件存在する(2024年6月現在)。中には、社会的処方によるフレイルの社会的側面への影響に関するものや、フレイル対応への医療職とソーシャルワーカー職の協働関係の実態調査を行ったもの、フレイルの社会的側面が個人のライフスタイルからどのように形成されるのかについて探ったものなど、社会福祉領域と関連・接近した研究も多く報告されている。

今後の国内の研究において、医療と福祉それぞれの立場から双方を活用する視点での研究が必要であると考えられる。

ⁱ 一般社団法人日本老年医学会(2014)「フレイルに関する日本老年医学会からのステートメント」(https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/info/topics/pdf/20140513_01_01.pdf 2024.05)

ⁱⁱ Makizako H, Shimada H, Tsutsumimoto K, et al(2015) Social Frailty in Community-Dwelling Older Adults as a Risk Factor for Disability. J Am Med Dir Assoc, 16(11), e7-e11